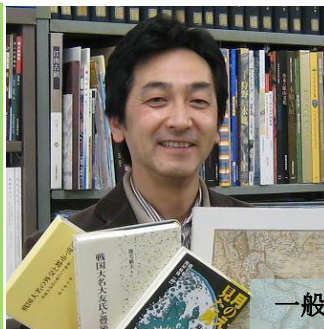


新居浜高専では、専門学科に加えて数理科と一般教養科を設け、学生に豊かな教養と工業技術者の素養を身につけてもらえるよう、大学教員と同等の教育研究能力を有する教員が日々教育に取り組んでいます。

今回は、歴史の授業を担当し、海外でのフィールドワークを積極的に行っている一般教養科 鹿毛敏夫准教授にお話を伺いました。

歴史研究



一般教養科 鹿毛敏夫 准教授

専門分野： 日本中世史
東アジア国際交流史

担当科目： 歴史(2～3年生)
歴史特論(5年生)
日本文化史
(専攻科1年生)

◆カンボジアでの古文書読解

歴史を研究したり学んだりすることが、なぜ必要なのか？とと思っている人たちのために、私たちがいま取り組んでいる研究の一端を紹介しましょう。

2009年3月、私はカンボジアで現地調査を行いました。世界遺産のアンコール・ワットは、12世紀にカンボジア国王の墓として造られたヒンドゥー教の寺院として有名ですが、実は、このお寺の石の柱には、500年ほど前にこの地を訪れた日本人が書いた無数の墨書文字が残されています。観光客など見向きもしないこの消えかかった墨書文字を一字一句解読することで、500年前(戦国～江戸時代初期)の日本人が、はるか東南アジアに船で渡って何を考え、何を祈っていたのかを理解することができます。

《カンボジアのアンコール・ワットの石柱》→
観光客が通る石の柱に500年前の日本人の墨書き文字が多く残されています。



◆ポルトガルでの国際ワークショップ



古文書や遺跡の現地調査で明らかになったことを論文にまとめ、その成果を学会やワークショップで公開することは、歴史研究者の使命です。特に近年では、明らかになった事実が日本だけでなく、世界史の文脈のなかでどう位置付くのかを明確にしなければなりません。

2009年11月にポルトガルの首都リスボンで開かれた国際ワークショップでは、私たち日本人の研究者に加えて、ポルトガル、ドイツ、フランスなどの研究者が集まり、研究された歴史事象をどう解釈すべきか、英語

《ポルトガルでの国際ワークショップを終えて》
日本、中国、ポルトガル、ドイツ、フランスの各国からの研究者たち。

でのディスカッションが行われました。

◆研究の成果を高専生向けの本に

どんなに優れた歴史研究を行ったとしても、その成果がごく一部の専門家しか読むことのない堅苦しい論文のままでは、社会に貢献したとは言えません。そこで私は、研究成果をわかりやすく紹介した図録や、学生向けの読み物や伝記小説の執筆にも取り組んでいます。2008年に東京のくもん出版から刊行した『月のえくぼを見た男』は、江戸時代に生きたある天文学者の生涯を、中学生でもわかるように紹介した伝記小説です。この本は、幸いに翌年の青少年読書感想文全国コンクールの課題図書に選定されて、全国の中学・高校・高専生に読んでもらうことができました。

《学生向け図書『月のえくぼを見た男』》→
全国の公立図書館をはじめ、新居浜高専の図書館にも配架されています。



◆テレビドラマの時代考証も

テレビで放送される時代劇としては、日曜夜8時から



のNHK大河ドラマが有名です。放送局が時代劇を制作するためには、原作や脚本、セリフ、大道具などのセットを数百年前の当時の状況に合致させる必要があります。この仕事を、時代考証と言います。

私が過去に関わった番組や時代劇のなかで最も思い出深いのは、遠藤周作の原作『王の挽歌』をもとに制作したNHK正月時代劇「大友宗麟～心の王国を求めて～」(2004年1月放送)です。NHKのプロデューサーやディレクターの方たちと前後1年近くにわたって綿密な打ち合わせをして台本やセットのチェックをし、ロケ地収録では主人公のおかれた時代背景を説明して主演の松平健さんに演じてもらいました。

《NHK時代劇のロケ収録を終えて》

松平健さんやNHKスタッフの方たちとお酒を飲み交わした後のほろ酔い写真です。